

- [ 成果情報名 ] ヒリュウ台「青島温州」の初着果のための条件
  - [ 要約 ] ヒリュウ台「青島温州」は、十分な結果母枝数を確保した上で初着果させると毎年安定した果実生産を行うことができる。
  - [ キーワード ] ヒリュウ台、青島温州、結果母枝数、初着果
  - [ 担当 ] 長崎果樹試・常緑果樹科
  - [ 連絡先 ] 電話 0957-55-8740、電子メール t.furukawa@pref.nagasaki.lg.jp
  - [ 区分 ] 九州沖縄農業・果樹
  - [ 分類 ] 指導
- 

#### [ 背景・ねらい ]

摘果、収穫労力の軽減や高糖度ミカンの生産安定にののために、わい性台木であるヒリュウ台木が利用が有効であると考えられる。しかし、実際の栽培面では不明な点が多く樹体管理の方法を明らかにする必要がある。

そこで、ヒリュウ台「青島温州」において、初着果年の時期が、その後の着果におよぼす影響を調査し、初着果のための樹体条件を検討する。

#### [ 成果の内容・特徴 ]

1. 定植 5 年目に初着果させるとその後の 1 樹当たり収量が、4 年目に初着果させた場合より安定して多い(図 1)。
2. 定植 5 年目初着果区は、定植 6 年目には 1 樹当たり収量が 20kg となり、翌 7 年目についても連続して収量、着果数は増加する。しかし、4 年目初着果区は減少する(図 2)。
3. 5 年目に初着果させた場合は、翌年の結果母枝数は増加する(表 1)。
4. 4 年目初着果区は、着花量及び新しょう量の年次変動が大きい。5 年目初着果区は年次変動が小さい(表 2)。また、定植 4 年目に樹上部を無着果にするとやや変動幅は小さくなるが 5 年目初着果ほどではない(表 2、表 3)。
5. 葉果比は、定植 4 年目に初着果させた区は翌年以降の変動幅が大きい。定植 5 年目に初着果させた区は、初年目葉果比 44 から毎年小さくなり着果 3 年目には葉果比 22 となる(表 3)。
6. 5 年目初着果区は、着果年数は 1 年少ないものの 3 カ年の合計収量は 4 年目初着果より多い(表 3)。

#### [ 成果の活用面・留意点 ]

1. ヒリュウ台「青島温州」は、樹冠の拡大はカラタチ台より遅れるが、着花性はよく、十分な結果母枝を確保しないまま初着果させると、翌年の着果が少なくなり隔年結果を助長するので、初着果は定植 5 年目で、葉果比 40 程度がよい。
2. ヒリュウ台「青島温州」の初着果年は、着果過多状態にならないよう樹上部を摘らいや摘果するなど、翌年着果させるための結果母枝を十分に確保する。

[ 具体的データ ]

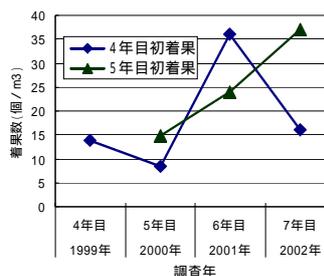
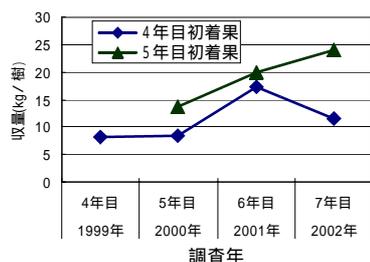


図1 ヒリュウ台青島温州の年次別収量

図2 ヒリュウ台青島温州の年次別着果数

表1 ヒリュウ台「青島温州」の初着果法の違いと結果母枝数

処 理	結果母枝の発生割合 (%)						結果母枝数 (本)	
	5 cm未満		5 cm以上 ~ 20 cm未満		20 cm以上		5年	6年
	5年	6年	5年	6年	5年	6年		
4年目初着果(全面)	47.0	76.6	46.9	21.1	6.1	2.3	225.5	152.5
4年目初着果(部分)	46.7	74.5	47.1	24.0	6.3	1.5	232.5	165.5
5年目初着果(全面)	76.7	64.1	22.6	33.9	0.7	2.0	164.4	313.8

注) 5年 は 2000年収穫後調査、6年 は 2001年収穫後調査

表2 ヒリュウ台「青島温州」の初着果法の違いと着花量、新しょう量

処 理	着花量			新しょう量		
	5年目 (1~5達観)	6年目 (1~5達観)	7年目	5年目 (1~3達観)	6年目 (1~3達観)	7年目
4年目初着果(全面)	1.2	5.0	1.1	2.7	1.0	2.9
4年目初着果(部分)	2.0	4.8	1.3	2.2	1.0	2.7
5年目初着果(全面)	4.1	2.3	2.8	1.0	1.9	2.0

注) 4年目(1999年)初着果(部分)は、樹上部を無着果とし下枝着果

表3 ヒリュウ台「青島温州」の初着果法の違いが葉果比と収量に及ぼす影響

処 理	葉 果 比				収量(kg/樹)				
	4年目	5年目	6年目	7年目	4年目	5年目	6年目	7年目	合計
4年目初着果(全面)	31.4	98.4	17.9	46.0	8.2	8.4b	17.4	11.5b	45.5
4年目初着果(部分)	31.5	60.7	23.1	43.2	9.0	10.2b	16.9	15.4b	51.5
5年目初着果(全面)	-	44.4	29.3	22.3	-	13.6a	20.0	23.9a	57.5
有意性					ns	**	ns	**	

注) 4年目初着果は1999年初着果、5年目初着果は2000年初着果

\*\*は1%水準で有意、\*は5%水準で有意

[ その他 ]

研究課題名 : 温州ミカンの品質保証果実の少資材・低コスト生産体系の確立  
 予算区分 : 国庫(地域基幹)(平成11~15年)  
 研究期間 : 平成14年度  
 研究担当者 : 古川 忠、後田経雄、山下義昭、今村俊清  
 発表論文など : 平成14年長崎県果樹試験場業務報告